連載小説

それから物語　第2話

（原案　リフレインさん＆天空の城とモフモフ君）

ガラガラと開いた扉の向こうには、カプセルの中と同じ様な虹色の空間が広がっていた。ふと、手元を見るとカプセルが強烈な光を放っている。私は引き寄せられるように、一歩前に出る。目の前が真っ白になったーーーーーーーー。

気が付くと、そこは草原だった。どこまでも広がる美しい緑の大地、上を見上げると、吸い込まれてしまいそうな青い空、そして、それを遮るかのように優しく眩しく照らしてくれる太陽。

「ここ、どこ?」

私は首を傾げた。さっきまで部屋の中にいたはずなのに、いつの間にかこんな自然いっぱいのところに来ていたからだ。そういえば、黒いカプセルを開けていなかったのを思い出した。力を入れてカプセルを開けた。

次の瞬間、ポンッと音がして中から煙が立ち込めた。そして、その煙の中から体長10cm程の小さな女の子が現れた。薄紫色の着物を着て、黒く長い髪をまとめている。背中には透明に透き通った羽がついている

「初めましてナリ。私はリンというナリ。出してくれて『アリガトウ』ナリ。名前は何ナリ?あだ名も教えてナリ!!」

自己紹介されたので、慌てて私も返す。

「わ、私は、めぐみ」

「あだ名は?」

私には、あだ名なんて無い。あだ名をつけてくれる人も、あだ名で呼んでくれる人もいない。だって、学校でも名教でも、いつも私は一人ぼっちだから……。

「あだ名なんて、ない。」

「えっ?」

「あだ名なんて、な・い・の!!」

つい、大声で言ってしまった。自分でもびっくりするぐらいの大きな声。普段はおとなしくしてるけど、こんなにも大きな声を発したのは、ホント久しぶりだ。

リンはきょとんとしている。この小さな女の子リンの住む世界では、どうやらあだ名があるのが、当たり前のようだ。

「ないんナリか?それなら私がつけてあげるナリ!う～ん……そうだ!

ミグっていうのはどうナリ?よし!これで決定ナリ!」

……勝手につけられた。イヤなことも思い出した気がする。

「そんなことより!ここはどこ?あなたはどうしてカプセルの中に?」

「ここは、ナオシル界ナリ!あと、私は、この世界を案内するためにカプセルの中に入ってたんナリ!」

自慢げに言われても困る。しかもナオシルって、【名教】を訓読みにして「ル」をつけただけじゃん!

「と・に・か・く!ミグは今日からここで大・冒・険してもらうナリ!」

大冒険って!まだどこかわからない場所で冒険なんかできない。でも、なんだかおもしろそうな気もしてる。

ゴゴゴゴゴガガガガガァァァ